

## 意見広告

## 最近の不毛な

## 原子力議論を 考える

エネルギー・原子力政策は、我が国の経済再生、国民生活の安定などに関わる重要な問題です。エネルギーコストの負担増は、企業の海外進出を加速させ、産業の空洞化と地域の疲弊を招き、国民・県民にとって雇用の喪失など大きな打撃となります。

福島第一原子力発電所事故の決定的な原因は、津波による全電源喪失であり、東京電力や国の事前の備えや事故対応が不十分であったことは明らかです。

しかしながら、事故後の原子力をめぐる議論は、曖昧模棱として未だに方向性の定まらない不毛な議論と言わざるを得ません。

また、原子力規制委員会による活断層調査についても、綿密な調査のもと議論を尽くして、科学的な根拠に基づく検証などが行われているか疑問であります。

福島事故を教訓に原子力発電所の安全性を徹底的に高め、活用するという現実的な対応を考えるべきと思われまます。

新興国の台頭によるエネルギー需要の増大など、激変する世界情勢の中、世界各国はエネルギー資源の確保にしのぎを削っています。

そうした中、ほとんど資源を持たない日本は、安定供給、環境性、経済性に優れた原子力、さらにはLNGなどのエネルギーのベストミックスを政策の要とするべきです。

今後のエネルギー、特に原子力については、我が国の今後のあり方を決める重要な問題です。安全であることを大前提に、

しっかりと方向付けされた責任あるエネルギー・原子力政策の実現がなければ日本の明日が心配です。



福井県経済団体連合会  
会長 川田達男

福井県経済団体連合会 〒919-0004 福井県福井市西本町2-8-1 福井商工会議所ビル4F TEL0776-2217890

新聞掲載の意見広告(4月15日付 日本経済新聞)



意見広告とセミナー案内のポスター

## 日本経済新聞に 意見広告

当懇話会・県経済団体連合会の川田達男会長は、福島第一原子力発電所事故後の原子力をめぐる議論について考える意見広告を新聞紙面に掲載しました。掲載日は日本経済新聞4月15日、福井新聞4月10日、日本商工会議所新聞5月21日。合わせてポスター作成も行いました。

福島での事故後の原子力をめぐる議論は、曖昧模棱として方向性の定まらないものとなっていて、また、原子力規制委員会による活断層調査についても、綿密な調査のもと議論を尽くして、科学的な根拠に基づく検証などが行われているかどうか疑問であるというのが現状です。

今後のエネルギー、特に原子力については、我が国の今後をあり方を決める重要な問題であり、ほとんど資源を持たない日本は、安定供給、環境性、経済性に優れた原子力、さらにはLNGなどのエネルギーのベストミックスを政策の要とすべきであると提言しました。

そのうえで、安全であることを大前提にしっかりと方向付けされた責任あるエネルギー・原子力政策の実現を強く訴えました。

### 第7回 福井県経済界サマースクール (共催)

#### 地域と企業の未来は？ ～地域発の成長戦略を考える～

日 時：平成25年8月28日(水)～29日(木)  
場 所：勝山東急ハーヴェストホテル(スキージャム勝山)



地域発の成長戦略について語る。左から小林利典氏、西川一誠氏、中村尚史氏。

毎年8月、福井県勝山市を舞台に開催する「福井県経済界サマースクール」を、福井県経済団体連合会、福井県商工会議所連合会と共催で開催しました。

第7回を迎えた今回は、「地域と企業の未来は？～地域発の成長戦略を考える～」をテーマに掲げました。各界一流の講師陣を招いて、地域経済をリードする企業経営者、行政幹部、大学関係者等136名が集まり、地域発の成長戦略について熱く議論しました。

「福井から考える」地域と企業の成長戦略」というテーマの鼎談では、東京大学教授の中村尚史氏、近畿経済産業局長の小林利典氏、福井県知事の西川一誠氏の3氏により、これからの地域と企業の成長戦略について話し合われました。



東経経団連が主催する日本原子力発電(株)が主催する日本原子力発電(株)敦賀発電所3・4号機建設予定地および1・2号機敷地内の破砕帯調査現場の視察研修会が開催され、当該現場「エネルギー懇話会」が主催する形で実施しました。

今後のエネルギー政策や活断層問題等、原子力をめぐる議論について理解を深めることを目的に開催された本視察会には、46名の方が参加されました。

参加者の皆さんは、初めて視察現場を訪れた方が多く、熱心に案内担当者にご質問するなど、日頃の疑問点を整理し、理解を深めていました。

### 日本原子力発電(株) 敦賀発電所3・4号機建設予定地および 破砕帯調査現場視察研修会

- 日時 平成24年4月23(火)
- 場所 日本原子力発電(株)敦賀発電所3・4号機建設予定地および1・2号機敷地内破砕帯調査現場
- 主催 福井県経済団体連合会、福井県商工会議所連合会
- 主管 福井県環境・エネルギー懇話会
- 参加者 46名

### わかりやすく学ぶエネルギーセミナー 「これでいいの!最近の不毛な原子力議論を斬る」

主催:福井県環境・エネルギー懇話会、福井県経済団体連合会

- \*第1回セミナー 講師:NHK水野解説委員**
- 日時 平成25年4月22日(月)
  - 会場 福井商工会議所ビル 国際ホール
  - 講師 NHK解説委員 水野 倫之氏
  - 演題 福島第一原発事故と事故後の原子力の安全
  - 参加者 114名

- \*第2回セミナー 講師:京都大学 林教授**
- 日時 平成25年5月15日(水)
  - 会場 福井商工会議所ビル 会議所A・B
  - 講師 京都大学防災研究所、  
巨大災害研究センター長 教授 林 春男氏
  - 演題 巨大災害と防災の観点からの原子力災害
  - 参加者 77名

- \*第3回セミナー 講師:広島大学 奥村教授**
- 日時 平成25年5月28日(火)
  - 会場 福井商工会議所ビル 会議室A・B
  - 講師 広島大学大学院文学研究科教授 奥村晃史氏
  - 演題 活断層・地震と原子力施設の耐震安全性
  - 参加者 101名

## 原子力議論をめぐる 課題と影響を解説。

東日本大震災をきっかけに各地の原発では現地調査が行われており、今後、廃炉判断を迫られる原発が出るだろうと指摘するとともに、電力会社の債務超過や自治体の経済を懸念し、国は原発を廃炉にする際の支援や、再引きを図りやすくするためのロードマップも検討しなければならぬという認識を示しました。

水野氏は報道関係者の視点から、福島第一原発の現状について事故はまだ収束していないとし、廃炉作業を円滑に進めるには国が司令塔となる必要があると述べました。また、今回の事故を教訓に、電力会社には過酷事故・テロ対策に関する基準が設けられたが、その対策が十分かを審査する規制機関の能力を上げることが重要であるとししました。

#### \*第1回セミナー NHK水野解説委員



**水野 倫之(みずののりゆき)氏**  
1987年名古屋大学卒業後、NHKに記者として入局。初任地青森での核燃料サイクル取材をきっかけに原子力の担当となる。もんじゅのナトリウム漏れ事故や東海村の臨界事故など原子力事故取材も多く経験。福島原発事故では発生直後からニュースなどで事故の状況を数日に渡り解説。

地域防災力の向上については、自治体は被害の発生を前提として一元的な備えをする必要があると話し、危機対応においては、まず福島原発事故のような点発



**林 春男(はやし はるお)氏**  
1979年早稲田大学大学院修了。1983年カリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)にて博士号取得。弘徳大学、広島大学を経て、1996年京都大学防災研究所巨大災害研究センター教授。2013年4月より現職。専門は社会心理学、危機管理、災害情報システム、文科省科学技術・学術政策委員会専門委員等。

林氏は危機管理で重要なのは対応のプロセスであり、それを継続的に改善できるかが問われると話しました。原子力災害への対応も危機管理であり、あらゆる危機を想定し対応すべきである林春男氏を招いて講演を行いました。

地震や津波による巨大災害から命と国土をどう守るのが、防災という観点から最近の原子力の安全性の議論をどう捉えればいいのか、京都大学防災研究所の巨大災害研究センター長教授である林春男氏を招いて講演を行いました。

#### \*第2回セミナー 京都大学 林教授



**奥村 晃史(おくむら こうじ)氏**  
1987年東京大学大学院修了。工業技術院地質調査所で地質調査研究を行った後、1996年より広島大学文学部および同大学大学院文学研究科で活断層・第四紀地質の研究・教育に携わる。世界各地で過去の大地震の断層を観測して長期的地盤変動評価と地盤防災の基礎データ取得とその活用に努めている。

規制委員会による活断層の調査、審議が進められている中、そもそも活断層や地震をどのように捉え、原子力の安全性との関わりの中でその影響をどう考えていけばいいのか、地震・活断層の研究者である広島大学大学院文学研究科教授の奥村晃史氏を招いて講演を開催しました。

奥村氏は新層・活断層・破砕帯と、原子力安全委員会が進めてきたバックチェックについて説明。活断層研究は非常に主観的で見方によって判断が分かれるものであり、だからこそバックチェックが必要であると話しました。また、地質の詳細な調査も判断としないうち、規制委員会が日本原子力の再調査を待たず敷置2号炉下に活断層があることを疑念を呈しました。

日本原子力は2つの海外研究者グループに第三者として客観的な調査を依頼しており、自身もそのメンバーとして今後より広い範囲を調査し、環状な議論はやめるよう勧告したいと述べました。

#### \*第3回セミナー 広島大学 奥村教授

## 資源エネルギー庁長官 上田隆之氏 特別講演会

主催：福井県環境・エネルギー懇話会、福井県経済団体連合会

- 日時 平成25年10月4日(金)
- 会場 ユアーズホテルフクイ 芙蓉の間
- 講師 経済産業省資源エネルギー庁長官 上田隆之氏
- 演題 これからのエネルギーはどうなるのか  
～原子力とエネルギーの課題と今後を語る～
- 参加者 410名



**上田 隆之(うえだ たかゆき)氏**  
1980年東京大学卒業後、通産省(現経済産業省)入省。大臣官房長、通商政策局長などを経て2013年6月より現職。2010年にAPECエネルギー大臣会合が福井で開催された時の経済産業省の副所長責任者を務めた。



国のエネルギー基本計画改定に向けた議論が進む中、資源エネルギー庁の上田隆之長官をお招きし、講演を開催しました。

上田氏は3・11以降の状況として、原子力発電なしで夏の電力需給は乗り切ったが、日本のエネルギー構造は中東依存度の問題、値段の問題、CO<sub>2</sub>排出量の問題などさまざまな点で非常に脆弱であると認識を示しました。また、国際情勢では、世界のエネルギー需要が増える一方で、アメリカのシェールガス生産が今後世界のエネルギー情勢を大きく変えるとし、国内・国際情勢などを踏まえ、何が合理的な原子力政策なのかを追求していく必要があると話しました。

安部総理は施政方針演説でも「エネルギーの安定供給とエネルギーコ

## IAEAと福井県との覚書締結記念

### IAEA事務局長 天野之弥氏 特別講演会

主催：福井県、福井県経済団体連合会

- 日時 平成25年10月7日(月)
- 会場 福井商工会議所ビル コンベンションホール
- 講師 IAEA(国際原子力機関)事務局長 天野之弥氏
- 演題 原子力の国際情勢と日本への期待
- 共催 福井県環境・エネルギー懇話会、文部科学省、福井大学
- 後援 外務省、経済産業省
- 参加者 530名



**天野 之弥(あまの ゆき)氏**  
1972年東京大学卒業後、外務省入省。言語審議官(軍備管理・科学担当)大臣、フィンランド駐日大使、核不拡散・原子力担当大使などを経て、2009年12月より現職。



ストの低減に向けた責任あるエネルギー政策の構築「安全が確認された原発の再稼働」などに言及しており、現在、エネルギー需給に関する基本的な方針「エネルギー基本計画」の審議が行われていると述べました。

また、固定価格買取制度の導入以降、再生可能エネルギーが伸びているが、この仕組みは電力料金に値段が跳ね返る問題があり、どこまで推進するかを考える必要があるとしました。その中で、面白い話題として日本の近海にあると言われるメタンハイドレードなどの資源をあげ、これをうまく活用できれば日本は30〜40年後にはエネルギー自給国になる可能性があり、国として研究開発や実証実験を行いこの夢を徹底的に追っ

世界の原子力情勢や日本への期待について、原子力の国際的な動きに大きな役割を果たすIAEA(国際原子力機関)の事務局長である天野之弥氏を招いて講演会を行いました。

IAEAは原子力の軍事転用の防止と平和利用の促進のために設立され、福島県と原発事故に関する協力の覚書を交わすなど積極的に関わっていると説明していただきました。福島原発の事故直後、閣僚会議で事故の対応などを検討し、IAEA総会で原子力安全強化のための行動計画を採択。原発を保有するすべての国でストレステストが実施され、その結果、過酷な自然災害に対する実質的な措置が取られつつあること、さらに現在、IAEAの安全基準の見直しで安全要件が強化される見直しであり、各国で

緊急事態対応の訓練が行われていることを話しました。

国連システムの中で、IAEAは技術協力において専門的な知識と経験を有する唯一の国際機関であり、専門知識を活用して原子力の平和利用のために各国への支援を行うとともに、核物質が核兵器に転用されないよう防止することもIAEAの重要な任務であると述べ、イランや北朝鮮の核の課題を取り上げました。

また、日本には原子力の分野で世界に貢献できる知識、経験、人材があり、福島で学んだことを世界に提供することで大きく貢献できると、原発事故の解決にあたっては世界の専門家から学び、議論を聞かせ、一番良い方法で処理をしていくことが必要だという見識を示しました。



**加藤 善一**  
(かとう・よしかず)氏  
1962年京都大学大学院修了後、科学技術庁(現文部科学省)入庁。内閣府政策統括官(科学技術政策・イノベーション担当)付参事官、文部科学省大臣官房審議官(研究開発局担当)等を経て2012年4月より現職。

経済産業省資源エネルギー庁受託事業  
**第14回エネルギー・環境教育セミナー** (放射線等に関する教育職員セミナー)

主催:経済産業省 資源エネルギー庁  
主 催:福井県環境・エネルギー懇話会、公益財団法人 原子力安全研究協会 後 援:福井県教育委員会

- 日 時 平成25年11月19日(火)  
○場 所 福井商工会議所ビル コンベンションホール・国際ホール  
○内 容
- 特別講演  
講 題:「宇宙開発の未来を拓くJAXAの取り組み ~宇宙放射線、宇宙太陽光発電等の研究と将来~」  
講 師:JAXA(宇宙航空研究開発機構)理事 加藤 善一氏
  - ワークショップ(グループ別によるケーススタディ)  
様々な放射線に関するシレンマ問題(テーマ)について、教育職員として何をどう判断し、どんな行動をとればいいのかをグループ別によるケーススタディを通して学ぶ。
  - 総合講評 京都教育大学 教授 山下 宏文氏
  - 実験・実習(進行:日本科学技術振興財団)  
紙コップと分光シートを使って万華鏡を作製し、虹のように分かれる可視光線を観察する中で、電磁波や放射線についての理解を深める。

○参加者 県内小中高校教諭及び関係者36名 ※カリキュラムのうち特別講演は240名(一般参加者含む)

JAXA(宇宙航空研究開発機構)理事である加藤善一氏を招き、宇宙開発に関する特別講演を開催しました。

JAXAは、航空宇宙技術研究所、宇宙科学研究所、宇宙開発事業団という3つの機関が統合した、日本で唯一宇宙開発の開発をしている独立行政法人であり、人工衛星の開発と観測、衛星「はやぶさ」の打ち上げ、国際宇宙ステーションでの実験などを行っている」と説明しました。

加藤氏はロケットがどう造られ、どのように打ち上がるかについて詳しく話をし、さらに「スペースシャトル」と言われる宇宙(みみや、宇宙の放射線の問題にも言及しました。宇宙ステーションに1日いると0.5〜1mSv被ば

**JAXA・福井市協定締結記念特別講演**



**ワークショップ  
実験・実習**

放射線の理解推進事業として、放射線の知識の普及のために、福井県を中心とする教育関係者を対象に「エネルギー・環境教育セミナー」を実施しました。

実験・実習では、紙コップと分光シートを使って万華鏡を作製し、電磁波や放射線についての理解を深めました。次に、エネルギーの話をつ色の順番で説明し、エネルギーの強さでカードゲームを行い、対戦を通して子供たちがエネルギーの順番を覚えていくことを解説しました。

くする計算で、それは普通の人の半分分の被ばくになるとし、宇宙飛行士は常に被ばく線量を管理していると説明しました。また、エネルギー関係では、宇宙太陽発電システムというコンセプトがあり、原理的には非常にきれいな、効率のいい発電ができるということと、基礎的な研究が進められていると話しました。

また、最近JAXAは福井市と宇宙教育の協力協定を結んだことに触れました。教員の研修の提携・連携、授業の連携、催し物の普及・啓発を通して福井市と協力し、宇宙をきっかけに子供たちに科学への関心を高めてもらう取り組みを一緒に進めていきたいと意欲を述べました。



ワークショップでは、アドバイザーとして福島からいわき明星大学科学技術学部の特任教授である石川哲夫氏をお招きし、放射線に関するシレンマ問題(テーマ)についてケーススタディなどを通して学びました。

最後に石川先生が「原子力発電所事故発生による様々な課題 ~学校運営諸問題を中心に~」の講演を行いました。ワークショップを終了しました。

(山下先生講評要旨)

実験・実習では放射線に対する理解の深化を図り、加藤理事には宇宙開発に関する貴重な講演をしていただいた。ワークショップで石川先生が風評被害に触れたが、福島事故では、いかにわれわれが放射線について知らないかが取り上げられた。放射線を学ぶ先にはエネルギー選択があり、原子力発電の問題がある。エネルギーの選択は国民がしていくのだという立場から教育をしていく必要があると思う。

山下 宏文(やました・ひろふみ)氏

小学校教諭を経て、1996年に京都教育大学教育学部助教授、2002年より現職。生涯教育、社会科教育専門。日本エネルギー環境教育学会副会長、日本教材学会常任理事、2003年より出前授業の環境・エネルギー教育実践研究会会長。



総合講評を語る山下宏文氏

**出前授業**

○日 時 平成26年2月5日(水)~6日(木)  
○会 場 明新小学校(福井市)  
○内 容 電気と私たちの暮らし(支援:北陸電力)  
○対 象 6年生5クラス 154名

福井市の明新小学校6年生を対象に、出前授業を行いました。「電気と私たちの暮らし」というテーマで、電気がどのようにつくられ、私たちの生活のなかでどのように役立っているかについて、いろいろな実験・実習を通して学びました。

発電の仕組みについては、火力、水力、太陽光、風力など電気がいろいろな方法でつくられ、それぞれに利点と欠点があることを学びました。

ひとりひとりが手回し発電や自転車発電で実際に電気を起こす実験では、人力で電球が点灯したり、テレビのモニタ画面が映るたびに歓声をあげていました。

私たちの日々の生活の中で電気が、光や熱や音や運動となって役に立ち、便利で豊かな暮らしにつながっていることを身をもって学習していました。





### エネルギー国際情勢学習支援事業 平田竹男氏講演会 in 進明中学校

主催：福井県環境・エネルギー懇話会

- 日時 平成26年1月29日(水)
- 会場 進明中学校(福井市)
- 講師 内閣官房参与、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会推進室長  
早稲田大学大学院 スポーツ科学研究科教授 平田竹男氏
- 演題 「国際人になるために」
- 後援 福井県教育委員会
- 参加者 進明中学校 全校生徒430名



平田 竹男(ひらた・たけお)氏  
1982年横浜国立大学卒業後、通商産業省(現経済産業省)入省。プロリーグ化検討委員会に参加し、Jリーグ発足に尽力。2002年退官後、日本サッカー協会専務理事に就任し、2006年から早稲田大学大学院スポーツ科学研究科教授。2013年からは内閣官房参与および2020年東京オリンピック推進室長も務める。

グローバル社会を生き抜く国際的視野を身につけることの大切さについて、内閣官房参与であり2020年オリンピック・パラリンピック東京大会推進室室長である平田竹男氏を講師に招いて、約430名の進明中学校全校生徒が学びました。

平田氏は早稲田大学でスポーツビジネスなどを教えており、東京招致の最終プレゼンテーションをした佐藤真海選手も教え子であると話しました。スポーツ選手が外国に遠征するときには健康管理が非常に大事であり、普段の環境ではないことを楽しみにして乗り越えるとともに、今の自分の環境などがいかに恵まれているかわかってほしいと説きました。

さらに、留学時に日本のことを知っていることが大事だと感じたエピソードを披露し、日本で当たり前のこと、が実は世界ではすごいことであり、オープンなコミュニケーションで普通の自分を出すことが、国際人になるには大事だと述べました。

最後に、生徒と質疑応答が交わされ、「外国に行って一番苦労したこと」「英語が得意でない人は、外国でどのようにコミュニケーションをとればいいか」などの質問に答えました。

### ロシア・ガスプロム社と 資源エネルギー庁との 共同調整委員会の開催協力

- 日時 平成25年4月15(月)～16日(火)
- 会場 福井商工会議所ビル 特別会議室、他
- 主催 資源エネルギー庁
- 協力 福井県、福井県経済団体連合会、福井県環境・エネルギー懇話会

当環境・エネルギー懇話会・県経済団体連合会は、資源エネルギー庁とロシア・ガスプロム社との共同調整委員会が福井で開催されるにあたり、県とともにその開催・運営の協力を行いました。4月16日の福井商工会議所ビルでの本会議に先立ち、前日にはあわら市内にて歓迎レセプションが開催され、日ロ双方の関係者約40名が参加し、交流を深めました。



### エネルギー国際情勢学習支援事業 北畑隆生氏講演会 in 森田中学校

主催：福井県環境・エネルギー懇話会

- 日時 平成26年2月17日(月)
- 会場 森田中学校(福井市)
- 講師 元経済産業事務次官、現在、神神戸製鋼所社外取締役、  
学校法人三田学園理事長、他 北畑隆生氏
- 演題 「国際人になるために」
- 後援 福井県教育委員会
- 参加者 森田中学校 全校生徒340名



北畑 隆生(きたばた・たかお)氏  
1972年東京大学卒業後、通商産業省(現経済産業省)入省。大臣官房長、経済産業政策局長などを経て2006年から2008年まで経済産業事務次官。現在は株式会社神神戸製鋼所社外取締役、丸紅株式会社社外取締役、学校法人三田学園理事長、他。

元経済産業事務次官である北畑隆生氏を講師に招き、日本のエネルギー問題と関係の深い中東と日本との係わりについて理解を深めました。現在、中東はイスラム教の国がほとんどだが、唯一例外がユダヤ教のイスラエルであり、建国以来、同国のイスラム諸国と何度も戦争を起していることを説明しました。さらに、イラクの民族対立や少数民族の存在、イスラム教の派閥の争いに触れるとともに、石油の有無による貧富の差も大きな問題であると指摘しました。

このように複雑な中東地域から、日本は石油の9割以上、天然ガスの約2割を輸入しており、戦争で石油の輸出が止まると日本は石油ショックになるとし、経済産業省は長年、中東依存度を下げるために原子力発電所を建設してきたと話しました。しかし、東日本大震災で福島原子力発電所で大変な事故が起り、今は全国の原子力発電所が止まっており、その結果、また中東に依存する経済になったとしました。安部総理は中東に次いで石油輸出・天然ガス輸出の余力のあるロシアと手を組み、日本のエネルギーの安定供給を図ろうとしていると述べました。

講演会・セミナー・イベント

わかりやすく学ぶエネルギーセミナー  
「これでいいの！最近の不毛な原子力議論を斬る」

第1回セミナー(NHK水野解説委員)

○日時 平成25年4月22日(月)  
○会場 福井商工会議所ビル 国際ホール  
○講師 NHK解説委員 水野倫之氏  
○演題 福島第一原発事故と事故後の原子力の安全  
○主催 福井県環境・エネルギー懇話会、福井県経済団体連合会  
○参加者 114名



第2回セミナー(京都大学 林教授)

○日時 平成25年5月15日(水)  
○会場 福井商工会議所ビル 会議所A・B  
○講師 京都大学防災研究所、巨大災害研究センター長 教授 林春男氏  
○演題 巨大災害と防災の観点からの原子力災害  
○主催 福井県環境・エネルギー懇話会、福井県経済団体連合会  
○参加者 77名



第3回セミナー(広島大学 奥村教授)

○日時 平成25年5月28日(火)  
○会場 福井商工会議所ビル 会議所A・B  
○講師 広島大学大学院文学研究科教授 奥村真史氏  
○演題 活断層・地震と原子力施設の耐震安全性  
○主催 福井県環境・エネルギー懇話会、福井県経済団体連合会  
○参加者 101名



第7回 福井県経済界サマースクール

○日時 平成25年8月28日(水)～29日(木)  
○会場 勝山東急ハーヴェストホテル(スキー・ジャム勝山)  
○テーマ 地域と企業の未来は？～地域興の成長戦略を考える～  
○講師 東京大学名誉教授 御園廣氏、経済産業事務次官 安達健祐氏、Jフロントリテイリング株式会社代表取締役社長 山本良一氏、キャスター 井田由美氏、福井県知事 西川一誠氏、東京大学教授 中村尚史氏、石川県知事 小林利典氏、福井県経済団体連合会 川田達男会長  
○主催 福井県経済団体連合会、福井県商工会議所連合会  
○共催 福井県環境・エネルギー懇話会  
○参加者 136名



資源エネルギー庁長官 上田隆之氏 特別講演会

○日時 平成25年10月4日(金)  
○会場 ユアーズホテルフクイ 美善の間  
○講師 経済産業省資源エネルギー庁長官 上田隆之氏  
○演題 これからのエネルギーはどうなるのか  
～原子力とエネルギーの課題と今後を語る～  
○主催 福井県環境・エネルギー懇話会、福井県経済団体連合会  
○参加者 410名



IAEA天野事務局長 特別講演会

○日時 平成25年10月7日(月)  
○会場 福井商工会議所ビル コンベンションホール  
○講師 IAEA(国際原子力機関)事務局長 天野之弥氏  
○演題 原子力の国際情勢と日本への期待  
○主催 福井県、福井県経済団体連合会  
○共催 福井県環境・エネルギー懇話会、文部科学省、福井大学  
○後援 外務省、経済産業省  
○参加者 530名



北陸技術交流テクノフェア2013

○日時 平成25年10月16日(水)～18日(金)  
○会場 福井県産業会館、福井県生活学習館、福井県中小企業産業大学など  
○テーマ あなたの知らない最先端。こんなところに北陸の技術。  
○内容 展示会、記念講演会、技術相談、商談会、他  
○主催 技術交流テクノフェア実行委員会(出会も委員)  
○来場者 20,233名



ロシア・ガスプロム社と資源エネルギー庁との  
共同調整委員会の開催協力

○日時 平成25年4月15日(月)～16日(火)  
○会場 福井商工会議所ビル 特別会議室、他  
○主催 資源エネルギー庁  
○協力 福井県、福井県経済団体連合会、福井県環境・エネルギー懇話会



視察研修会

日本原子力発電(株)敦賀発電所3・4号機  
建設予定地および破砕帯調査現場視察研修会

○日時 平成24年4月23日(火)  
○場所 日本原子力発電(株)敦賀発電所3・4号機建設予定地および1・2号機敷地内破砕帯調査現場  
○主催 福井県経済団体連合会、福井県商工会議所連合会  
○主催 福井県環境・エネルギー懇話会  
○参加者 46名



原子力防災関連視察研修会

○日時 平成25年8月22日(木)  
○場所 富士総合火力演習(海上自衛隊東富士演習場周辺地区)  
○主催 福井県経済団体連合会、福井県環境・エネルギー懇話会  
○内容 今後の原子力などの防災関連業務に役立てるため、自衛隊の取り組みや活動状況について理解を深める。



原子力関連地域視察研修会

○日時 平成26年3月10日(月)～12日(水)  
○場所 福井県川内村(長崎大学復興推進拠点、村役場、他)、富岡町  
○主催 福井県環境・エネルギー懇話会  
○内容 開催予定セミナーに向けた事前調査のため、関係先の視察とヒアリングを行い、現地状況についての理解を深める。



広報

新聞広報(意見広告)

○テーマ 最近の不毛な原子力議論を考える  
○掲載日 平成25年4月10日(水)→福井新聞  
○掲載紙 平成25年4月15日(月)→日本経済新聞  
平成25年5月1日(水)→日本商工会議所新聞  
○内容 福井県経済団体連合会 川田達男会長名により、しっかりと方向付けされた責任あるエネルギー・原子力政策の実現を求める提言(全5段)



会報E&E Reportの発行(vol.50号)

○仕様 タブloid版6頁  
○内容 平成25年度の主な事業活動、取り組みについて掲載  
○発行日 平成26年3月31日



教育支援

第14回 エネルギー・環境教育セミナー (放射線等に関する教育職員セミナー)

(経済産業省資源エネルギー庁の委託事業)  
○主催 経済産業省 資源エネルギー庁  
○主催 福井県環境・エネルギー懇話会  
公益財団法人 日本科学技術振興財団  
○後援 福井県教育委員会  
○特別協力 福井市、福井市教育委員会  
○日時 平成25年11月19日(火)  
○場所 福井商工会議所 コンベンションホール  
○内容 ①実験・実習  
紙コップと分光シートを使って万葉歌を作製し、虹のように分かれる可視光線を観察する中で、電磁波や放射線についての理解を深める。  
進行:日本科学技術振興財団  
②ワークショップ(グループ討議によるケーススタディ)  
様々な放射線に関するシナリオ(テーマ)について、教育職員として何をどう判断し、どんな行動をとればいいのかをグループ討議によるケーススタディを通して学ぶ。  
③特別講演  
演題:「宇宙開発の未来を拓くJAXAの取り組み～宇宙放射線、宇宙太陽光発電等の研究と将来～」  
講師:JAXA(宇宙航空研究開発機構)理事 加藤新一氏  
④総合演習 京都教育大学教授 山下宏文氏  
県内小中高校教員及び関係者 36名  
来カリキュラムのうち特別講演は240名(一般参加者含む)



エネルギー国際情勢学習支援事業

平田竹男氏講演会 in 進明中学校

○日時 平成26年1月29日(水)  
○会場 進明中学校(福井市)  
○受講者 進明中学校 全校生徒430名  
○演題 「国際人になるために」  
○講師 平田竹男氏  
内閣府特命担当大臣  
2020年オリンピック・パラリンピック東京大会推進局長  
早稲田大学大学院 スポーツ科学研究科教授  
○主催 福井県環境・エネルギー懇話会  
○後援 福井市教育委員会



北畑隆生氏講演会 in 森田中学校

○日時 平成26年2月17日(月)  
○会場 森田中学校(福井市)  
○受講者 森田中学校 全校生徒340名  
○演題 「中東と日本」  
○講師 北畑隆生氏  
元経済産業事務次官、現在、福神戸製鋼所社外取締役、学校法人三田学園理事長、他  
○主催 福井県環境・エネルギー懇話会  
○後援 福井市教育委員会



エネルギー・環境教育の出前授業

○日時 平成26年2月5日(水)～6日(木)  
○会場 閉新小学校(福井市)  
○内容 電気と私たちの暮らし(支援:北陸電力)  
○対象 6年生5クラス 154名



環境・エネルギー教育問題懇談会

①日時 平成25年7月26日(金)  
○会場 福井商工会議所ビル6階 特別会議室  
○議題 環境・エネルギー教育支援事業について  
第14回エネルギー・環境教育セミナーの企画について  
○出席者 委員14名  
②日時 平成26年2月26日(水)  
○会場 福井商工会議所ビル6階 特別会議室  
○議題 第14回エネルギー・環境教育セミナーの開催結果について  
次回セミナーの方向性について  
○出席者 委員10名

